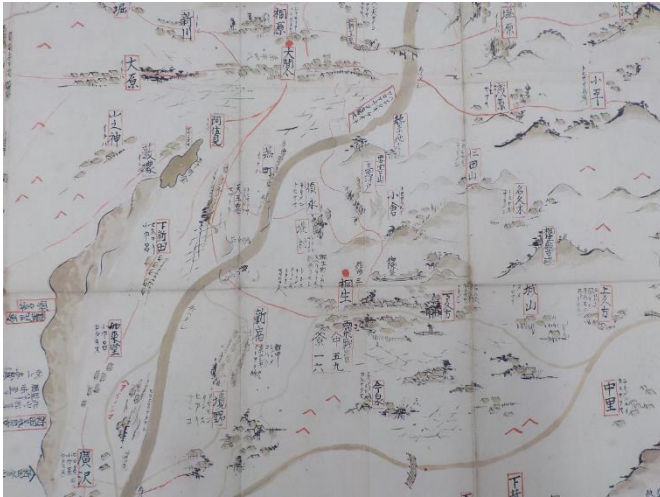


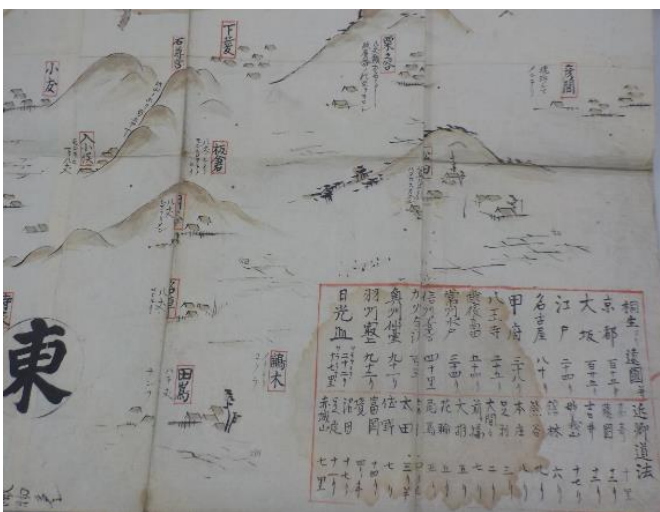
11	上州一国之図 *縦 91.7 cm×横 80.5 cm 画像は部分	文政2 (1819)年	佐川勘六・弥兵衛 之れを写す	絵図 1 舗	赤石氏 収集 54
	「桐生」(赤丸●)を中心とした地域について、絵や文字で当時の情報が記されている大型絵図です。養蚕・製糸・織物業に関し、多く記されています。				



『上州一国之図』という題名ですが、「桐生」(赤丸●)を中心に渡良瀬川・桐生川流域や、隣接する野州(現在の栃木県)の町村が詳しく描かれています。織都・桐生の繁栄を強調し、東毛地域を大きく扱っている絵図です(北毛は描かれず、「関東大一ノ広川 利根川」以西も大部省略されています)。



西端には赤城山(「西」の字のあたり)が大きく描かれ、「上野第一ノ高山ノ四季雪不絶」と記されています。なお、現在の群馬県最高峰は関東最高峰でもある日光白根山(2,578m、群馬・栃木県境)で、赤城山(1,828m)に万年雪はありません。



本絵図は3色で描かれています。太い幅の線は渡良瀬川や利根川です。また、下方には桐生から京都、大坂など主要都市への距離の一覧表も記載されています。町村や地域について、当時盛んだった養蚕・製糸・織物業のことを中心に文字情報も書きこまれており、見どころが大変多い絵図です。